

を紹介しています。192ページの「地域からのメッセージ」の中で、コミュニティバスや第3セクターを詳しく紹介しています。

嘉名委員

わかりました。現代の問題で、やがて、私たちの周りにも降りかかってくる問題でしょうから、生徒たちには、しっかりと学習していただきたいです。関連して、「町おこし」なども紹介されていますね。神山町のような例もマスコミでとりあげられていますね。これは、ふるさとの良さも学ぶことにもつながってきます。

和田教育長

それでは、ずいぶんご意見をいただきましたので、地理的分野の教科書の採択を行いたいと思います。各社とも、本当に、よいところがたくさんありました。その中で、写真を活用しやすいところや領土問題、ふりかえりの点からも、帝国書院のよさが僅差で勝っていたように思いますが、地理は帝国書院でよろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

では、社会科・地理的分野は帝国書院を採択いたします。

引き続いて、社会科・公民的分野について、審議を始めます。選定委員から報告してください。

三並選定委員

(別冊資料に基づき説明)

中学校教科用図書、社会科・公民的分野について報告いたします。対象は、東京書籍、教育出版社、清水書院、帝国書院、日本文教出版、自由社、育鵬社の7社です。

まず、Bの(1)について、「伝統文化を大切にし、ふるさとの

つながり」を取り上げ、学習の興味関心を高めているのが、帝国書院、育鵬社です。帝国書院は16ページ、17ページ「文化の継承と創造」の中で、伝統を受け継ぐ中学生を紹介しています。育鵬社は24ページから「日本の伝統文化」について写真を使って、たくさん紹介しています。28ページをご覧ください。また、2社とも家族についても明記されています。育鵬社19ページには郷土、郷土愛も取り上げられています。

次に、Bの(4)についてです。各社さまざまな人権問題について取り上げています。東京書籍では50ページ、51ページのなかで中学生の人権作文を2例紹介し、人権問題に対して、考えを深めるようにしています。帝国書院51ページをご覧ください。現代の人権問題について、「羅針盤マーク」の中で、子どもを守るためのオレンジリボンや児童虐待相談について紹介されています。

自由社163ページ、育鵬社182ページ、183ページでは、日本人拉致事件について紹介されています。

Dの(2)について、教育出版社では、58ページや102ページなど「言葉で伝えよう」の中で、ディベートやシミュレーションなどの多様な学習方法が示されています。帝国書院では、57ページにあるような「技能をみがく」のなかで基本的な学習や多様な学習方法を紹介していますし、144ページなどの「トライアル公民」では、意見をまとめたり、話し合ったりして学習をさらに深める内容になっています。

また、Dの(3)について、帝国書院では、40ページのような「クローズアップ」では、これから学ぶ内容に関する実社会の事例が紹介され、同じく帝国書院53ページなどの「Yes、No」では、学習したテーマについて賛成・反対の意見が紹介されています。育鵬社では44ページのように「〇〇の入り口」が第2章から第5章の始めに配置され、各章の導入になっています。

次に、D(4)では、東京書籍88ページなどの「えんぴつマーク」では学習を深めるための作業や活動が紹介されています。また帝国書院125ページなどの「説明しよう」では、学習した

内容を踏まえ、自分の言葉で説明する作業を取り入れています。

Dの(5)では、ふりかえりについて特長的なところが見られました。東京書籍は、116ページなどの「この章の学習を確認しよう」では、用語の確認のページがまとめられており、問題形式で知識を復習しやすくなっています。教育出版社は、72ページ「学習のまとめと表現」で学習のまとめと表現力を高める課題が設定されています。帝国書院では、146、147ページのように2ページにわたっています。章末の「学習をふりかえろう」で「確認しよう」と「説明しよう」に分けてまとめられており、問題形式で復習しやすくなっています。自由社では56ページなどで、「学習のまとめと発展」で最重要語句の確認ができ、学習の発展では、「400字でまとめてみよう」という課題になっています。育鵬社は、82ページ「学習のまとめ」でわかりやすくまとめられており、問題形式で復習しやすくなっています。

以上で社会科・公民的分野の選定報告とさせていただきます。

和田教育長

それでは、社会科・公民的分野について、ご意見をお願いします。

柴委員

中学の社会科では、小学校の社会科と比較して覚えることが格段に多くなっていますが、ところで、基礎基本を大切にしたり、活動を通して学習を深めたりするような教科書はありますか。

三並選定委員

はい。東京書籍は49ページなどの「公民にチャレンジ」で本文の学習を深めるために、個人やグループで行う作業や活動が紹介されています。

帝国書院は、26ページ「技能をみがく」の中で、公民の基礎的な技能を身につけるコラムとして紹介されています。82ページ「トライアル公民」では、章の終わりに設けられています。段階を踏みながら友達と協力して考えるように設定されています。個人で考え、グループで話し合い、

関連ページでふりかえるように設定され、学習を深める工夫がされています。日本文教出版では71ページのように教科書の理解を助けるコラムとして「公民プラスアルファ」が設けられています。

和田教育長

先日、選挙について、18歳から選挙権が得られる法律改正についての報道がありました。選挙に関する学習で、特長的な教科書はありますか。

三並選定委員

はい、東京書籍は、72ページ、73ページに特設ページを設け、「だれを市長に選ぶべき？」と題して紹介しています。身近な話題から選挙について、自分の考えをもたせたり、グループで考えさせたりしています。また、77ページの「公民にチャレンジ」では「多数決について考えよう」や「選挙シミュレーション」と題して、選挙について考えるコーナーを設けています。80ページには、「日本の主な政党」の党首の顔写真を掲載して紹介し、興味をもたせています。また、帝国書院63ページをご覧ください。「羅針盤コーナー」で「ネット選挙の解禁」が紹介されています。現代的な選挙の形ですが、現在、中学校で学ぶ生徒たちもこの形で選挙に参加するのではないかと思います。タブレット端末を使い、選挙がより身近になるのではないのでしょうか。

日本文教出版79ページには、「アクティビティ」の中で、選挙制度が紹介され、小選挙区・比例代表制のメリット、デメリットが記載されています。育鵬社の84、85ページをご覧ください。「政治の入り口」で議員の考え方を読んで、どの党に投票するかを考えるコーナーになっています。政治を学ぶ意義も紹介されています。

和田教育長

各社とも工夫があるんですね。わかりました。選挙制度についてはここ最近、話題になっていることですし、これからの日本を担う中学生にはしっかりと知っておいてもらいたい内容です。この学習を通して、選挙や政治が生徒に「身近なもの」と感じてもらえるようになってほしいと思います。

柴委員

「ふるさと」を考える一つの要因として、「家族や郷土」がありますが、その点についてはいかがですか。

三並選定委員

はい。その質問では答申にも取り上げているように2社に特長が見られました。まず、帝国書院では、18、19ページをご覧ください。「クローズアップ」では、人気歌手の歌詞がとりあげられています。生徒たちの興味関心が得られるところです。家族の役割や「愛情と信頼の関係」「団らん」など家族のきずながよくわかるように説明されています。育鵬社では18、19ページを見てください。「家族は、愛情と信頼で結ばれた、最も身近な共同体」という言葉が印象的です。地域社会や、郷土愛についても触れられています。

柴委員

なるほど、この2社は特長的ですね。家庭や家族の大切さや、地域や郷土についても取り扱っている育鵬社はいいですね。

阪谷委員

安全保障関連法案や憲法第9条について話題になっています。「日本国憲法」「戦争」などについて特長的な教科書はありましたか？

三並選定委員

このところ連日、マスコミでも報道されているところですね。各社とも掲載されております。そのなかでも、6社に特長がありました。東京書籍42、43ページをご覧ください。「日本の平和主義」が取り上げられています。「公民にアクセス」では「集団的自衛権」「沖縄の米軍基地」についても取り上げられています。教育出版社では、66ページをご覧ください。このように平和主義の学習があり、米軍基地や自衛隊の活動などが資料としてわかりやすく掲載されています。70、71ページでは「読んで深く考えよう」で、国際社会の厳しい現実と平和主義と題して現在の問題を投

げかけています。語り部の活動も修学旅行で体験したことを思い出すことができます。帝国書院40ページは、広島・長崎両方の平和祈念式典が写真で紹介されています。本市の中学校の修学旅行の活動も想起できる写真で平和教育がつながる場面だと思えます。同じく帝国書院181ページをご覧ください。沖縄の基地問題に触れ、「資料活用」が盛り込まれ、深く考えられるように設定されています。「解説」では「集団的自衛権」を取り上げています。現代の問題をたくさん含んだ学習内容になっています。日本文教出版では、68ページに第9条が明記され、71ページの「公民プラスアルファ」で「沖縄と基地問題」を取り上げています。育鵬社でも57ページに「集団的自衛権」、59ページに「沖縄と基地」について記載されています。

阪谷委員

6社ともいいですね。内容も充実しています。

澤田委員

先ほど、地理のところでも話題になりましたが、領土問題について、公民ではどのような取り扱いになっていますか。

三並選定委員

はい。まず政府の見解をまとめてみますと、「北方領土・竹島と、尖閣諸島とでは、取り扱いが違っており、尖閣諸島については領有権の問題はそもそも存在しない」という立場をとっています。

すべての教科書において、北方領土、竹島、尖閣諸島について記載されています。特長的なのは東京書籍です。196ページ、197ページ「公民にアクセス」の中で詳しく取り扱っております。竹島・北方領土・尖閣諸島とも、歴史的背景に触れた説明や、近年の状況についても紹介されています。帝国書院では、168ページ、169ページで紹介されています。「日本の排他的経済水域」を表す地図のなかで、周辺国について国旗とともにわかるように工夫されています。明治30年代の写真が掲載され、日本人

が定住していたことがよくわかります。育鵬社も177ページの地図の中で詳しく取り上げられています。178ページ、179ページ「理解を深めよう」では、歴史のなかで、日本人が北方領土や尖閣諸島に住んでいたことがよくわかる写真や資料が記載されています。

澤田委員

各社とも工夫されていますね。「国際司法裁判所」などもきちんと取り上げて説明されているんですね。

三並選定委員

おっしゃるとおりです。本当に大切な内容がどの教科書にも盛り込まれていて、「近い将来、日本を背負う生徒たちに」と考えると、どの教科書もよくまとめられています。

阪谷委員

公民は、地理・歴史分野はもちろんのこと、現代社会の事象にまで幅広く学習していかないといけないのですね。学習のまとめのところでは、いかがでしょうか。

三並選定委員

はい。やはり各社とも工夫が見られますが、本市の目標に沿ったものは3社ありました。まずは東京書籍の32ページをご覧ください。「この章の学習を確認しよう」のなかで、①は用語の意味について説明させています。語句のわからないものは、もどって確認しやすいようにページも明記されています。②は①を使ってカッコを埋める問題になっています。③は「説明しましょう」など言語活動をともなう学習活動でまとめをさせています。言語活動の充実を図ろうとしている本市の目標に合うと思います。このような振り返りが各章末に計5回掲載されています。帝国書院では、58、59ページ「学習をふりかえろう」の中で、1番は「確

認しよう」で書き込みや語句の選択問題があります。2番は「説明しよう」というように構成されています。書き込みもできるように工夫されています。また、「学習の前にふりかえろう」や「次の部への準備」も掲載されており、学びのつながりが意識されています。このような振り返りが第4部までの中で9回あります。育鵬社も42ページのように「学習のまとめ」で重要語句の確認をし、1番2番はカッコを埋める問題、3番は「説明しよう」になっています。このような振り返りが各章末に4回あります。

和田教育長

それでは、いろいろ議論してきましたので、そろそろ採択しなければならぬのですが、これまでのやりとりを聞いていると、各社とも創意工夫が見られ、甲乙つけがたいところです。

嘉名委員

選定委員会答申をみても、東京書籍、帝国書院、日本文教出版、育鵬社の4社は同程度の評価になっていますね。

阪谷委員

もう少し、時間をいただいてもいいでしょうか。私は、育鵬社181ページの国歌のところがいいコラムだと思うんです。ここでは、日本の国歌、「君が代」の意味について、詳しく紹介されています。そのうえで、アメリカやフランスなど他の国も並列して紹介しています。国歌の大意を目にすることもそうないことだと思うので、とてもいいコラムだと思います。ほかにも、育鵬社194、195ページには東日本大震災を通しての日本の絆、世界の絆が紹介されています。「自分を犠牲にし、住民を守った公務員」や「感動を与えた日本人の秩序」など、日本人の素晴らしい心遣いや行いが紹介されており、郷土に誇りを持つ意味で、ぜひ、中学生に学んでもらいたいところです。

嘉名委員

阪谷委員がおっしゃった国歌の話なんですが、育鵬社は各国の国歌が並べられていたり、他のところでも、他の国はどうかということが並列的に並べられていたりして、グローバルな視点が見られますね。

また、育鵬社の2、3ページに公民を学ぶ意義が示されています。これはすごく重要だと思います。他社と比較してみても地理・歴史とのつながりがよくわかるようにも示されています。なぜ公民を学ぶのか、なぜ大切なのか、ここに明記されています。将来社会に出た時に、社会人としてあるいは国民としてどうあるべきかを学ぶためにも、このページの意義はとても大きいと思います。さらに、次のページにはこれらをふまえて、自分の人生を考えましようといった内容にも触れられていて、そういう意味でも公民という教科の特徴をあらわしているのも好感が持てます。

柴委員

確かに、中学生にとって公民を学ぶ意味やなぜ公民という教科が必要なのかを説明することは非常に重要だと思いますし、その意義を示していることは良いことだと思います。

その次のページにある「人生モノサシ」では自分の将来設計を考えられるよう、うまく工夫されていますね。これはキャリア教育につながる大事な部分ですよ。

阪谷委員

もう1か所、いいですか。表紙裏に「私たちを取り巻く課題」が写真とともに紹介されていますよね。今すぐ解決しないかもしれないけれど、子どもたちに現在の社会の課題を投げかけることが大事で、そのことを認識して、考えさせることこそが大事だと思います。

澤田委員

考えさせることが大事ということであれば、今話題になっている憲法改正についても、そうです。他の教科書では、仕組みや手続きを中心に紹介しているのに対して、育鵬社は焦点となる課題についても子どもたちに考えさせる機会をつくっています。これこそが大切だと思います。

阪谷委員

育鵬社は、国会でも議論されている9条関係などの取り扱いについても、内容を見る限り、大きく偏った教科書ではないと思います。

和田教育長

公民の教科書選定については選定委員会及び事務局の皆さんに、東京書籍、帝国書院、日本文教出版、育鵬社の4社についてはこの間、特に細かい記述に至るまで相当な時間を割いて検討してきていただきました。

私も普段から思っていることなのですが、戦後70年間、日本は科学技術を発展させ、国民生活を高め、世界でも類を見ないほどに成熟した社会を作り上げてきました。ただ、その裏で、科学の進歩や文明を追い求めるあまり、古き良き伝統・文化が衰え、「個」が強調されるあまり、社会の基本的なルールやきまり、社会性がないがしろにされてきた部分は、否定できないと思っています。例えば、家族のきずなが希薄になり、地域の孤立、地域のつながりが薄れてきたことなどです。そのため、60年ぶりに改正された教育基本法に基づいて、今本市ではそこに重点を置いて、古き良き伝統や文化を大切にし、郷土を愛する態度を子どもたちに育てようと、「ふるさと学」をはじめ、家庭、地域とのつながりを大切にした教育方針を掲げてきました。そのような部分に焦点を当てれば、先ほどの議論にもあったように、どの教科書にも家族について、取り扱っているのですが、やっぱり、育鵬社の扱い

方が、他社とは違って重みがあるように思います。本市の子どもたちにふさわしいのはどこの教科書か考えると、私は育鵬社になってくるかと思います。

澤田委員

私も同感です。家族愛や郷土愛について、よく読ませてもらうとずいぶん違う。表現方法や記述方法の違いにもよるのですが、育鵬社には深みを感じます。日本の社会の中で、崩壊しつつある家族愛や郷土愛を今こそ大事にしないといけないと思います。本市もこのことを踏まえて、教育方針に「ふるさとのつながり」を大切にしてきたわけで、そのことを踏まえても育鵬社がよいと思います。

柴委員

高度経済成長の時代は、「働け！働け！」で、結果的に世界のトップクラスにまで発展しました。でも一方で、私も失ったものがあると常々思っていました。私は国際交流事業に参加し、ホームステイ先を紹介することがあります。日本をホームステイ先にする場合にも、ホームステイ先の情報収集を行います。以前の日本にあった良き習慣、例えば「向こう三軒両どなり」という言葉に代表されるような、相互扶助の精神が失われつつある、そういったことが、外国人の視点から見たときに気付かされることがあります。相互扶助の精神の喪失が家族崩壊や地域のつながりを失ってきた原因のひとつであると思います。ところが、大震災を契機に家族のきずなや地域のつながり、人と人とのつながりが見直されていますし、その重要性が再認識されてきたところです。育鵬社はその部分に重点をおいているように思います。

和田教育長

これまでのご意見を聞いていますと、多面的、多角的という表現は、社会科（歴史、地理、公民）の全てで使われてきた言葉で

すが、確かに指導法・考え方としては、大切にしなければならないということはみなさん共通した認識を持っていると思います。

ただ、例えば高校生への意識調査で「自分自身に自信を持っているか」という質問に対し、中国やアメリカの高校生が8～9割が持っているのと答えたのに対し、日本の高校生は3割強しか持っているとは回答しなかった。このことは、私たちが戦後教育の中で「個人」や「公平性」に重心をおいてやってきた結果のあらわれであるのかもしれませんが。

それは戦後教育の大きな成果なのですが、一方で、今の時代の子どもたちを考えると、社会人としての「公民」の大切さや、人のつながりの大事さや伝統文化やふるさとや家族の大事さについて、重心をかけなければならない時期にいるという思いは委員全員が共有しているように思います。子どもたちの現状や、河内長野市の教育が重心をかけている「ふるさとのつながりによる教育」を考え合わせると、育鵬社を採択することが適切ということになるんですが、この分野については、市民から採択がふさわしいふさわしくない両方の声があり、当然、さまざまな価値観は必要だと思いますが、先ほど述べた点、「公民」を学ぶ意義が明記され、現代の課題を生徒に考えさせることに力点をかけているという点で、公民は育鵬社を採択することによろしいでしょうか。

委員一同

異議なし。

和田教育長

では、社会科・公民的分野は育鵬社を採択いたします。

引き続きまして、技術・家庭科、家庭科分野を審議します。選定委員から家庭科分野について報告してください。

三並選定委員

(別冊資料に基づき説明)